



ひらりんちゃん通信 (園長室だより) ②

令和7年6月20日
文京区立千駄木幼稚園
園長 篠澤 恵理

自分から取り組むために

誕生会後の「子育てトーク」では、保護者の皆様と一緒に、子どもが誕生した時のことを思い出し、成長したことを喜ぶひとときになりました。また、日頃の子育てを振り返りながら、心配に感じていることも話題に上がりました。「自分で身支度をしないので、親が声をかけると、子どもは、聞こえないふりをする」「つい怒ってばかりになってしまう」など、親の悩みは、いつの時代も同じです。

私も、子育て中は、同じように悩んだことを思い出しました。子どものことを叱った後には、かなりのエネルギーを消費して、親の方もヘトヘトになりました。「叱る」が「怒る」になってしまう自分を反省したり、落ち込んだりすることもありました。親も、自分自身の気持ちを整えることは、簡単ではありません。

しかし、このまま怒り続けるのも疲れるので、どうにかせねばと思いたち、このもよもよとした親心を、ありのままの言葉にして子どもに伝えるようにしました。「悲しい」「本当は、怒りたくない」「どうすれば、怒らないか悩んでいる」「あなたのことを心配している」など。何とか感情が高ぶる気持ちは抑えながら、ゆっくり、短い言葉で、分かりやすく、「私」を主語にして伝えるようにしました。伝えているうちに、「私の育て方が悪いのかもしれない」と言いながら、子どもの前で泣いたこともあります。すると、「母ちゃんは悪くない」と言って、我が子も一緒に泣きました。すぐに変化はないものの、親の思いは、伝わりました。

さて、幼稚園教育要領に記載されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい(10の)姿」の中に、「自立心」があります。「育ってほしい」とは、到達目標ではなく方向目標ですが、小学校以降の教育につながる共通の概念として示されたものです。その中に、「(中略)しなくてはならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり工夫したりしながら、諦めずにやり遂げる(略)」とあります。「しなくてはならない」ことがあっても、つつい後回しにすることは、大人でもあります。「やりたくない」と思いながらも、「やらないといけない」と思って動くには、その後のことを思い浮かべて見通す力も必要なのです。子どもに何度伝えても伝わらないと感じたら、「分かりやすいか」「取り組みやすいか」「求めていることが難しいか」「すべき理由が分かっているか」などを再確認すると、改善できる場合があります。また、「～しなさい」と伝えるよりも、「今する？後でする？」と子どもに聞いて、すべきことを示しながら、子ども自身がいつするのか決められるとよいですね。子どもが、自分から取り組むために、考えたり工夫したりしてやり遂げる経験が、自立心の芽生えにつながることでしょう。言葉での理解が難しい場合は、状況や次にすることが目で見て分かるように、環境を整えていくこともひとつです。

子どもの誕生日は、親としての誕生を祝う日でもあります。子どもの成長と同様に、「まだ、親としても〇歳だから」と、親自身の成長も大目に見ながら、子育てを日々頑張っている自分自身に拍手を送りましょう。

体験を力に

先日の「わくわくタイム」では、年長児が、「カンフー」「バレエ」「華道」の中で、やりたいことを選んで楽しみました。華道では、花の茎をじっくりと見て、どの長さに切るか考えていました。花の成り立ちに関心を向ける機会となりました。

新しいことに取り組む体験は、子どもたちの心にため込まれて、豊かな力となることでしょう。

